学校番号	104

令和８年度　理数科

教科	理数	科目	理数数学Ⅱ	単位数	４／ 6単位	年次	２年次
使用教科書	数学Ⅱ,数学Ｂ，数学Ⅲ,数学Ｃ（数研出版）						
副教材等	サクシード数学Ⅱ＋Ｂ　（数研出版）　サクシード数学Ⅲ＋Ｃ　（数研出版） チャート式　基礎からの数学　数学Ⅱ＋Ｂ（数研出版） チャート式　基礎からの数学　数学Ⅲ＋Ｃ（数研出版） 基礎問題精講Ⅱ＋Ｂ、基礎問題精講Ⅲ＋Ｃ						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業は基本的には教科書に沿って進めていきます。先生の説明をただ聞いているのではなく，自ら考え，主体的に学習をしてください。また中学までとは違い，扱う問題の量が格段に増え，内容もより高度になっていきます。授業の中で「分かった」と思っていても，それを家に帰ってしっかり復習，演習をしていかないと「自分で解ける」ようにはなりません。また、試験前にまとめて復習することは難しいです。授業を受けて分からない事や質問などがあれば，放って置かず必ずその日のうちに解決していくようにしてください。
・家庭学習における課題は，定期的に提出してもらいます。また、長期休業中にはたくさんの課題が出されます。まとめてするのではなく，計画的にこなしていくようにしましょう。
・問題を解くときはまず自分で考えてみてください。その際，途中式や考え方も書くようにしましょう。分からないときは答えを見てもかまいません。ただし，そこに書いてある解説をしっかり読んで理解してから自分の力で解いてください。

2　学習の到達目標

（1）図形とその方程式・軌跡や領域、指数関数・対数関数，三角関数、微分・積分及び極限等ついての基礎的な知識を習得するとともに，数学的に処理する技能を身に付ける。
（2）図形とその方程式・軌跡や領域、指数関数・対数関数，三角関数、微分・積分及び極限等を用いて，事象を数学的に考察・判断する能力を培い，それらを表現できるようにする。
（3）事象の考察に，図形とその方程式・軌跡や領域、指数関数・対数関数，三角関数、微分・積分及び極限等を主体的に活用する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	図形とその方程式･軌跡や領域､指数関数･対数関数，三角関数、微分・積分及び極限の考えについての基本的な概念や原理･法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり,数学的に表現･処理したりする技能を身に付ける。	関数関係に着目し,事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力,関数の局所的な変化や極限に着目し，事象を数学的に考察したり,問題解決の過程や結果を振り返って統合的･発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
上に示す観点に基づいて，学習のまとまりごとに評価し，学年末に５段階の評定にまとめます。 学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し，評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第3章　図形と方程式	第1節　点と直線 1　直線上の点 2　平面上の点 3　直線の方程式 4　2直線の関係 第2節　円 5　円の方程式 6　円と直線 7　2つの円 第3節　軌跡と領域 8　軌跡と方程式 9　不等式の表す領域	a：図形とその方程式・軌跡や領域に関する基本的事柄を理解し,事象を表現・処理することができる。 b：図形とその方程式・軌跡や領域に関する数学的な見方や考え方を身に付けている。 c：図形とその方程式・軌跡や領域に関心をもち，その有用性を認識している。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
	第4章　三角関数	第1節　三角関数 1　角の拡張 2　三角関数 3　三角関数の性質 4　三角関数のグラフ 5　三角関数の応用 第2節　加法定理 6　加法定理 7　加法定理の応用	a：三角関数・加法定理に関する基本的事柄を理解し,事象を表現・処理することができる。 b：三角関数に関する数学的な見方や考え方を身に付けている。 c：三角関数に関心をもち,その有用性を認識している。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート

2学期	第5章　指数関数と対数関数	第１節　指数関数 １　指数の拡張 ２　指数関数 第２節　対数関数 ３　対数とその性質 ４　対数関数 ５　常用対数	a:　指数関数と対数関数に関する基本的事柄を理解し,数量の変化を表現し、値を求めることができる。 b:指数関数・対数関数に関する数学的な見方や考え方を身に付けている。 c:指数関数，対数関数に関心をもち、その有用性を認識している。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
	第6章　微分法と積分法	第１節　微分法と導関数 １　微分係数 ２　導関数とその計算 ３　接線の方程式 第２節　関数の値の変化 ４　関数の増減と極大・極小 ５　関数の増減・グラフの応用	a:微分法に関する基本的事柄を理解し, 微分法を用いて関数の値の変化を表現し、処理することができる。 b:様々な事象を、微分法を用いて，数学的な考察をすることができる。 c:微分法に関心をもち，事象の考察に活用している。また、微分法の有用性を認識している。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
		第３節　積分法 ６　不定積分 ７　定積分 ８　定積分と面積	a:積分法に関する基本的事柄を理解し、面積や体積などの数量を求めることができる。 b:様々な事象を、積分法を用いて，数学的な考察をすることができる。 c:積分法に関心をもち，事象の考察に活用している。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート

3学期	第1章 関数	1 分数関数 2 無理関数 3 逆関数と合成関数	a: 分数関数、無理関数、逆関数の定義や性質を理解し、分数関数、無理関数のグラフを書くことができる。具体的な関数の逆関数を求めることができる。 b: 方程式や不等式の考察に分数関数、無理関数のグラフを用いた見方や考え方ができる。 c: 分数関数、無理関数、逆関数に関心をもっている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
	第2章 極限	第１節　数列の極限 1 数列の極限 2 無限等比数列 3 無限級数 第2節 関数の極限 4 関数の極限(1) 5 関数の極限(2) 6 三角関数と極限 7 関数の連続性	a: 数列・関数の極限について用語や記号の意味を理解し極限について調べることができる。連続関数の定義を理解している。 ｂ：様々な関数の極限について数学的な考え方や見方を身につけている。 c: 数列の極限、関数の極限について関心をもっている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

学校番号	104

令和８年度　理数科

教科	理数	科目	理数数学Ⅱ	単位数	2／6 単位	年次	２年次
使用教科書	数学Ｂ，数学Ｃ（数研出版）						
副教材等	サクシード数学Ⅱ＋Ｂ　（数研出版）　サクシード数学Ⅲ＋Ｃ　（数研出版） チャート式　基礎からの数学　数学Ⅱ＋Ｂ（数研出版） チャート式　基礎からの数学　数学Ⅲ＋Ｃ（数研出版） 基礎問題精講Ⅱ＋Ｂ、基礎問題精講Ⅲ＋Ｃ						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業は基本的には教科書に沿って進めていきます。先生の説明をただ聞いているのではなく，自ら考え，主体的に学習をしてください。また中学までとは違い，扱う問題の量が格段に増え，内容もより高度になっていきます。授業の中で「分かった」と思っていても，それを家に帰ってしっかり復習，演習をしていかないと「自分で解ける」ようにはなりません。また、試験前にまとめて復習することは難しいです。授業を受けて分からない事や質問などがあれば，放って置かず必ずその日のうちに解決していくようにしてください。
・家庭学習における課題は，定期的に提出してもらいます。また、長期休業中にはたくさんの課題が出されます。まとめてするのではなく，計画的にこなしていくようにしましょう。
・問題を解くときはまず自分で考えてみてください。その際，途中式や考え方も書くようにしましょう。分からないときは答えを見てもかまいません。ただし，そこに書いてある解説をしっかり読んで理解してから自分の力で解いてください。

2　学習の到達目標

（1）数列，ベクトル，平面上の曲線と複素平面についての基礎的な知識を習得するとともに，数学的に処理する技能を身に付ける。
（2）数列，ベクトル，平面上の曲線と複素平面を用いて，事象を数学的に考察・判断する能力を培い，それらを表現できるようにする。
（3）事象の考察に，数列，ベクトル，平面上の曲線と複素平面を主体的に活用する態度を育てる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活との関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて，学習のまとまりごとに評価し，学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて，それぞれの観点を適切に配分し，評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　数列	第１節　等差数列と等比数列 １　数列と一般項 ２　等差数列 ３　等差数列の和 ４　等比数列 ５　等比数列の和 研究　複利計算	a:等差数列と等比数列の一般項およびそれらの和を求められるようにする。 b: 等差数列，等比数列の和の条件から初項や公比を求めることができる。またその際，式の特徴を活かして適切に変形したり，式の意味を読み取ったり表現したりできる。 c:等差数列，等比数列を様々な事象の考察に役立てようとする姿勢を養う。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
		第２節　いろいろな数列 ６　和の記号Σ ７　階差数列 ８　いろいろな数列の和	a: 和の記号Σの表し方や性質を理解し，活用できるようにする。また，いろいろな数列について，その一般項や和を求めたり，和から一般項を求めたりできるようにする。 b: 和の記号Σの表し方や性質を理解し，活用できるようにする。 c: いろいろな数列について興味をもち，一般項や和について考察しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
		第３節　漸化式と数学的帰納法 ９ 漸化式 研究　$a_{n+1}=\mathrm{p}a_n+q$を満たす数列の階差数列 発展　隣接3項間の漸化式 研究　漸化式の活用 10 数学的帰納法	a: 漸化式から一般項が求められるようにする。 b: 複雑な漸化式を既知のものに帰着して考えられるようにする。また，数学的帰納法の仕組みを理解し，様々な命題の証明に活用できるようにする。 c: 具体的な事象の考察に，漸化式を積極的に活用しようとする。また，様々な命題の証明に数学的帰納法を活用しようとする態度がある。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート

2学期	第1章　平面上のベクトル	第1節　ベクトルとその演算 1　ベクトル 2　ベクトルの演算 3　ベクトルの成分 4　ベクトルの内積 研究　三角形の面積	a：ベクトルの演算，成分，面積を求めることができる。 b：内積の性質を用いて，等式を証明したり，ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。 c：ベクトルの内積の計算をする際，1つ1つの計算で用いている性質を意識し，正しく適用できているか確かめようとする姿勢がある。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
		第2節　ベクトルと平面図形 6　位置ベクトル 7　ベクトルの図形への応用 8　図形のベクトルによる表示 研究　点と直線の距離	a：基本的な図形のベクトル方程式を求めたり，ベクトル方程式が表す図形を求めたりできるようにする。 b：位置ベクトルについて理解し，位置ベクトルを図形の性質を調べるのに活用できるようにする。 c：様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
	第2章　空間ベクトル	1　空間の点 2　空間のベクトル 3　ベクトルの成分 4　ベクトルの内積 5　ベクトルの図形への応用 6　座標空間における図形	a:ベクトルに関する基本的事柄を理解している。 b：空間ベクトルに関する数学的な見方や考え方を身に付けている。 c:空間図形に関心をもち，空間ベクトルを用いて考察しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
3学期	第3章　複素数平面	1　複素数平面 2　複素数の極形式 3　ド・モアブルの定理 4　複素数と図形	a:複素数に関する基本的事柄を理解している。 b：複素数に関する数学的な見方や考え方を身に付けている。 c:複素数に関心をもち，極形式やド・モアブルの定理を用いて考察しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート

	第4章　式と曲線	第１節　２次曲線 １　放物線 ２　楕円 ３　双曲線 ４　2次曲線の平行移動 ５　2次曲線と直線 ６　2次曲線と離心率 第２節　媒介変数表示と極座標 ７　曲線の媒介変数表示 ８　極座標と極方程式 ９　コンピューターの利用	a:2次曲線に関する基本的事柄を理解している。 b:2次曲線を、媒介変数表示を用いて表現することができる。 c:2次曲線に関心をもち，その性質を事象の考察に活用している。	定期考査 確認テスト 定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート 定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度